

沖縄県伊江島具志原貝塚出土 貝塚後期の貝殻集積の年代学的調査

Archaeological Report on the Chronology of Shell Accumulations of the Late Shell
Midden Period Excavated at Gushibaru Shell Midden, Iejima, Okinawa

KINOSHITA Naoko, SAKAMOTO Minoru and TAKIGAMI Mai

木下尚子・坂本 稔・瀧上 舞

I 調査の概要

2019年2月19日、木下、坂本、国立歴史民俗博物館の藤尾慎一郎氏は沖縄県立博物館にて山本正昭氏と新垣力氏の立ち会いのもと、伊江村具志原貝塚貝殻集積出土のクロフモドキ3点（試料番号：ONGSB-28, 31, 37）の提供を受けた。

これらをAMS-炭素14年代測定したところ、古墳時代前期に併行する貝塚後期に比定される資料群であることがわかった。

以下、遺跡の概要や考古学的な知見（Ⅱ）を木下が、炭素14年代測定と同位体比分析の調査結果（Ⅲ・Ⅳ）を坂本・瀧上が行い、最後にまとめ（Ⅴ）を全員で行った（木下）。

Ⅱ 具志原貝塚の概要と資料の考古学的特徴

具志原貝塚は、伊江村川平区具志原に所在する貝塚前2期から貝塚後1期に至る時期の複合遺跡である。遺跡のある伊江島は沖縄本島西北部、本部半島から10 kmにある東西に長い島で、遺跡はその南海岸中央部の砂丘に立地する。本貝塚は沖縄本島で最初に弥生土器が発見された遺跡として知られ、その一部は国の史跡に指定されている。

1984年から1985年、史跡に隣接する砂丘地で採砂工事が計画され、沖縄県教育委員会が緊急調査を実施した〔安里編1985〕。この調査で、西区のⅢ層、Ⅴ層、Ⅶ層において合計9基の貝殻集積が検出された。Ⅴ層とⅦ層の集積はすべてイモガイ類である（Ⅲ層のものは未報告）。今回Ⅴ層の集積から3個を選び、炭素14年代測定を行った。

Ⅴ層の貝殻集積は現存するもので47個（アンボンクロザメ32、クロフモドキ15）あり、この内からクロフモドキ3個を選択した。Ⅴ層は大当原式期に比定され、その上下の層で弥生時代後期後半の免田式土器が出土している（木下）。

Ⅲ 資料の処理と測定

年代測定に供した貝試料は、2019年2月19日、沖縄県立博物館にて担当の山本正昭氏と新垣力氏の立会いのもと、伊江村具志原貝塚貝集積出土のクロフモドキ3点（試料番号：ONGSB-28, 31, 37）の提供を受けた。国立歴史民俗博物館の年代実験室で、ダイヤモンドホイールカッターを用いて外唇から楔状に200～300 mgの薄片を切り取り、（株）パレオ・ラボに送付して酸エッチングと加速器質量分析計による炭素14年代測定（AMS-¹⁴C法）を依頼した（坂本・瀧上）。

Ⅳ 測定結果

貝試料の測定結果を表1に示す。2000 ¹⁴C BP 台の炭素14年代を示した。

遺跡におけるローカルリザーバー効果（ ΔR ）を0と仮定し、較正曲線 Marine13 [Reimer et al. 2013] に基づき、較正プログラム OxCal [Bronk Ramsey 2009] を用いて算出した較正年代の確率密度分布を図1に示す。3点とも3世紀後半から5世紀前半の較正年代を示した（坂本）。

表1 具志原貝塚貝殻集積出土の年代測定

遺構番号	貝種	部位	採取	試料番号	重量 (mg)	測定機関 番号	炭素14年代 (¹⁴ C BP)	較正年代 (cal)	備考
西区V層	クロフモドキ	外唇	小片	ONGSB-37	247.8	PLD-38517	2055±18	AD275-365 (1σ) AD255-405 (2σ)	II-2
	クロフモドキ	外唇	小片	ONGSB-28	204.3	PLD-38515	2031±17	AD325-405 (1σ) AD270-420 (2σ)	II-1
	クロフモドキ	外唇	小片	ONGSB-31	209.2	PLD-38516	2016±17	AD345-410 (1σ) AD290-435 (2σ)	II-3

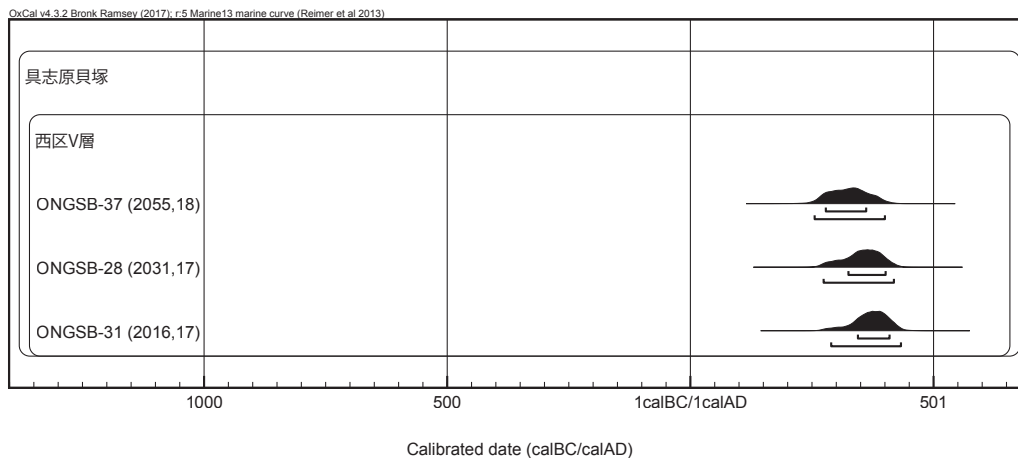


図1 具志原貝塚出土貝塚後期貝殻集積の貝試料の較正年代の確率密度分布
(Marine13に基づき、 $\Delta R=0$ と仮定)

V まとめ

具志原貝塚の貝殻集積の年代は古墳時代前期から中期に併行する貝塚時代後期に比定され、在地土器（大当原式）で推定される年代と整合的である。同じ層から種子島広田遺跡に共通する貝符が出土しており、この地域との関連が示唆される。

謝辞

本調査にあたり、沖縄県埋蔵文化財センターの新垣力氏、沖縄県立博物館の山本正昭氏のお世話になった。記して感謝の意を表します。

なお、本調査は、平成30年度新学術領域研究「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」（代表 国立遺伝学研究所 斎藤成也）、計画研究B01班「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」（代表 国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎）の成果の一部である。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009: Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), pp. 337-360
伊是名村教育委員会 1979 :『具志川島遺跡群第3次発掘調査報告書』伊是名村教育委員会
Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafliðason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., van der Plicht, J. 2013: IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon*, 55 (4), pp.1869-1887

木下尚子（熊本大学人文社会科学部）

坂本 稔（国立歴史民俗博物館研究部）

瀧上 舞（国立歴史民俗博物館研究部）

（2019年5月10日受付，2019年8月5日審査終了）